

# 直下型LED液晶 タッチパネル採用 4K大画面で広がる新体験



## 高輝度高精細 直下型LED 4Kパネル

TE-SN-70には直下型LEDパネルを採用。4K解像度により美しいコントラストでメリハリのある映像描画を実現。高輝度で鮮明な画像を再現します。

## StarBoard Softwareに最適

世界中で採用されているStarBoardSoftwareが付属し、ハードウェアの性能を最大限に発揮させます。また、マルチOSをサポートし、34か国語に対応しています。

## 高精度、20点マルチタッチ対応

高精度できめ細かい位置検出ができ、誤動作の少ない軽快な高速応答でマルチタッチを実現し、授業で複数人が同時に操作できます。

## よく使う機能に簡単アクセス

パネル左右のファンクションボタンで素早く機能を切り替えます。ペン色の変更やページの追加など、よく使われている機能が配置されています。

## 硬質AG処理ガラス採用

学校などの公共施設用として厚さ4mmの強化ガラスを使用し、より安全性を高めています。さらに、アンチグレア(AG)処理により、太陽光などの反射が抑えられています。

## “業界初”大音量スピーカー搭載

今までの電子黒板用スピーカーより更に大音量となり、騒々しい場面でもすみずみまでしっかり音が届きます。

※オプション対応となります。



# 情報活用能力の向上に向けて小中学校に500台の電子黒板を導入

沖縄市では、文科省が進める「ICT利活用のための基盤整備」に積極的に取り組んでおり、平成30年度に市内の小中学校(24校)のすべての普通教室と特別教室に合計500台の「電子黒板(StarBoard(TE-SN-70))」の導入を図りました。機種選定にあたって沖縄市教育委員会に導入経緯や今後の展望についてお話を伺いました。



## 使いやすく見やすく操作が簡単

機種選定については、「電子黒板デモ会を開催し実際に学校の先生方に触って頂いた上で、意見を集約し学務課、指導課、教育研究所などの見知も交え、機種を絞り込みました。」と當銘剛研修係長。「選定のポイントは長期間活用できるもの、画面が大きくて使いやすく見やすいもの、操作が簡単なもの、メンテナンスがしっかりしていることなどでした」と島優子主任主事。「StarBoard」の画面は4Kで奥行きがあって立体感あり、縮小拡大が自由自在で細部がしっかり見られること、また、電子黒板専用ソフトSTARBOARDは先生方が使いやすく便利な機能が多くあり「これなら分かりやすい授業ができ、生徒も興味と関心をもってくれる」との意見が多くあり、省エネや防塵防滴対策が講じられていることなども評価につながったといいます。

● 支援員は現在6名。24校ありますので、1人4校掛け持ちで週に最低1回は学校を訪問していますので、特に不慣れな先生方には好評です」と當銘剛研修係長。若い先生方の中には、自分なりの活用の仕方を提案する人もいます。また、生徒からの提案で新しい活用の仕方が見つかることもあるといいます。ICT支援員は各現場で見聞きした事例を集め、研修会などで公開するなどして利活用に役立てています。

● 「ゆくゆくは沖縄市型の電子黒板メソッドみたいなのができればいいかなと思っています」と與那嶺剛指導部長。今後はコミュニケーションツールとしての「電子黒板」の活用の仕方なども考えていきたいと語ってくれました。

## 副次的な効果が期待できる



左より當銘剛研修係長、與那嶺剛指導部長、島優子主任主事

「電子黒板はあくまで教育のツールです。これで学力が一気に向上するとは思いませんが、電子黒板をどのように活用していくか、先生方の指導の仕方や生徒の学び方で授業内容が大きく変わっていくと思います。どのように変化して

いくか、5年、10年というスパンで検証していきたいと思っています」と與那嶺剛指導部長。「電子黒板」の優れた点は立体を立体として見せることができ、これまで教材・教具を先生自ら製作したり購入していたものも画面で表現することができ、コスト削減や時間短縮が図れること。また、データの保存で何度でも使用することができ、先生同士でのデータのやりとりや共有化が図れる利点があるといいます。

「電子黒板を入れることで副次的な効果が期待できます。予算の有効投入ということでは1+1が2ではなく、3にも4にもなってくれないと困るわけで、電子黒板は一つの起爆剤になるかもしれません」と與那嶺剛指導部長。

## ICT支援員が利活用を支援

沖縄市教育委員会では「電子黒板」の利活用を推進するために、ICT支援員という専属の担当者を派遣しており、授業の準備、段取り、セッティングなどの指導や研修会なども開催しています。「ICT支

## 伝えたいことを明確化できる電子黒板



沖縄市立 北美小学校 大城 智紀 教諭

「StarBoardは4K70インチのテレビ型で映像がクリアで色合いもよく、大音量スピーカーもあって使いやすい。タッチパネルなので画面に直接触れて書き込みができるし、拡大提示もできるので、集中力がないうちや理解の遅い子にも学習内容がわかりやすくなると思います」と大城智紀先生。操作もスマートフォン感覚でできるのも便利でいいと言います。

デジタル教科書や自作のコンテンツ、動画教材の提示、実物投影機と併用するなど使い方はさまざま。その上、StarBoardはデータの保存もできるので、授業での活用やデータの共有もできる利点もあるとのこと。

「ただ従来の黒板も必要です。電子黒板の内容は、画面が切り替わると消えてなくなりますが、黒板に書いたものは残ります。電子黒板が「動」だとすると、黒板は「静」、その使い分けが必要ですよ」と大城先生。

大城先生は市の情報教育研究協力員でもあり、研究の一環で電子黒板の活用意図を調査したところ、一番多かったのは「指示や説明の明確化」だったそうです。一つの情報を焦点化して全員でパッと見ることができるので、指示や説明を子どもにしっかり伝えることができる。そうすれば、授業の展開がテンポよく進み、その分、ノートに書く時間や考える時間、対話の時間が増えてきて、授業の質の向上にもつながります。

「基本操作に慣れてくれば非常に使い勝手がいい。さらに今後、タブレット端末が導入されるようになれば、今以上に活用頻度も活用方法の幅も広がってきます。ICTの環境整備が進むことで、子どもたちの情報活用能力も一段と向上すると思います。とてもいい電子黒板が入ったので、先生方も大変喜んでいました」と語ってくれました。